

2009年7月20日

2009年9月10日最新

報道関係者 各位

早稲田大学・DAYS JAPAN 共催

フォトジャーナリズム・フェスティバル

開催期間：2009年9月28日(月)～2010年2月27日(土)

コア期間：2009年11月23日(月・祝)～12月5日(土)

会場：早稲田大学(早稲田キャンパス・戸山キャンパス)

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご配慮を賜り、厚くお礼申し上げます。

2009年11月23日(月・祝)から12月5日(土)をコア期間とした、早稲田大学・DAYS JAPAN 共催による『フォトジャーナリズム・フェスティバル』を開催します。

今回は「フォトジャーナリズム」の視点から「現場のジャーナリストの仕事にふれて再認識する」「ジャーナリズムに信頼を取り戻す道を模索する」「激変するメディア界の将来について考える」などジャーナリズムの全般について問いかけます。

開催期間はコア期間を2週間とし前後数か月にわたる長期間の複合的イベントとなります。学生はもちろんのこと幅広い層を対象としていますので、みなさまにご参加いただきジャーナリズムへの意識がより高まることを希望します。

つきましては、貴媒体にてぜひ多くの方々にご紹介くださいますようお願い申し上げます。

敬具



1. 趣旨

「フォトジャーナリズム・フェスティバル」は早稲田大学と DAYS JAPAN の共催によるものです。

「ジャーナリズム」といっても広範囲におよぶため、今回は「フォトジャーナリズム」の視点から「現場のジャーナリストの仕事にふれて再認識する。」「ジャーナリズムに信頼を取り戻す道を模索する。」「激変するメディア界の将来について考える。」などジャーナリズムの全般について問いかけます。

例えば、ジャーナリストの仕事、とくに人権や生命を守るための役割を理解するという点では、ビジュアル・ジャーナリズムも活字ジャーナリズムも、基本的には共通の基盤を持ちますが、このジャーナリズムの基盤が理解されないまま、器であるメディアの種類だけが語られる傾向があります。

経営が中心に語られる「メディアの危機」ではなく、「ジャーナリズムの危機」を考え、人々は何を知る必要があるのか、何を伝えるべきなのか、ジャーナリストは何を守るべきか、この問題に絶えず立ち返り、現場のジャーナリストたちの仕事にふれながら、メディアの状況、未来についても考える機会をもちます。

本フェスティバルは展示・講演会などイベントを行うとともに、早稲田大学が長いジャーナリズムの歴史をもつ大学であるため、本学でのジャーナリズム教育の活動を紹介します。また、各イベントも学生をはじめとしたボランティアの協力を得て、インタラクティブな活動を行っていきます。

その期間は、コア期間を2週間とし、前後数か月にわたる長期間の複合的イベントとなります。学生はもちろんのこと幅広い層を対象としていますので、みなさまにご参加いただき、ジャーナリズムへの意識がより高まることを希望します。

2. イベント概要

詳細は随時告知します。また都合により変更・中止もありますのでご了承ください。

オープニングイベント・公演

「フォトジャーナリズム・フェスティバル」コア期間開催のご挨拶

ご挨拶(予定): 瀬戸直彦(早稲田大学文化推進部長)、広河隆一(DAYS JAPAN 編集長) ほか
「生命のコンサート」音楽と写真のコラボ

出演(予定): ナターシャ・グジー(ウクライナ出身、チェルノブイリ原発事故被害者、歌手)、

MINA(アイヌ歌手)、青柳拓次(作曲家、Little Creatures) ほか

講演: 「ジャーナリストと世界(仮)」立松和平(作家)

講演「フォトジャーナリストの志について」広河隆一

日時: 2009年11月23日(月・祝) 14時40分から

会場: 大隈記念講堂(以下「大隈講堂」) 大講堂

展覧会

1. 「地球の上に生きる 2009」

DAYS JAPAN が 2005 年から始めた DAYS 大賞受賞作品の代表作品を約 100 枚展示します。これまでの 5 年間、世界で何が起きたのか、人間と自然の尊厳の決定的瞬間をとらえた写真で伝えます。

会期: 2009年11月21日(土)~12月5日(土)

休館日: 11月22日(日)

会場: 早稲田大学戸山キャンパス学生会館2階 アトリウム

2. 「DAYS の 5 年 戦争と混乱の時代 - フォトジャーナリストは何を伝えてきたか」

イラク戦争開戦から 1 年後に創刊した DAYS JAPAN が伝えてきた多くは、ますます複雑化した混乱する世界を映し出しています。それらの写真約 100 枚を展示します。しかし本誌は、いつの時代にもあるように、人間や自然がたくましく生きる姿も伝えてきました。翻弄する今、世界がどこに向かおうとするのか、5 年間の軌跡の中に一筋の光が見えることを願います。

会期: 2009年11月21日(土)~12月5日(土)

期間中の休館は無し

会場: 早稲田大学 27 号館(小野梓記念館)地下 2 階 小野記念講堂(以下「小野講堂」)ロビー

3. 広河隆一「人間の戦場 40 年」 - 核と中東とアジア

40 年以上現場を追い続けている広河隆一が、一瞬をとらえた写真をとおして、被写体の声を伝え続けてきました。

会期: 2009年11月16日(月)~12月19日(土)

期間中の休室は無し

会場: 早稲田大学 26 号館 10 階「125 記念展示室」(以下「125 記念室」)

4. 「フランス・バイユー戦争報道特派員写真受賞作品・野外展」

フランス・バイユーの代表写真 12 枚を早稲田大学で野外展示します。室内に入らずとも、大学すべてが「フォトジャーナリズム・フェスティバル」一色となり、フェスティバル全体を盛り上げていきます。

会期: 2009 年 11 月 16 日(月) ~ 12 月 19 日(土)

会場: 早稲田大学構内(場所未定)

5. 特別展示「^{さわ}触れる地球」

竹村真一(Earth Literacy Program・京都造形芸術大学教授)

協力 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)、S.A.L.(慶應義塾大学学生団体)、NGO

北海道洞爺湖サミットや愛・地球博などで展示され、日本にとどまらず、世界でも注目されている地球儀の展示です。DAYS 大賞受賞作品、および NGO やボランティア団体が世界中で活動する内容を実際にデータに組み込み、立体的に世界を映し出していきます。なお、会期中に竹村真一教授によるデモンストレーションと解説を実施予定

「上映会・講演・シンポジウム等」へ。

会期: 2009 年 11 月 21 日(土) ~ 12 月 5 日(土)

会場: 早稲田大学 27 号館(小野梓記念館)1 階 ワセダギャラリー(以下「ワセダギャラリー」)

6. 石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞 記念展(仮称)

エコノミスト、政治家、また本学出身の初の首相として活躍した石橋湛山の名を冠し、広く社会文化と公共の利益に貢献したジャーナリスト個人の活動を発掘し、顕彰することにより、社会的使命・責任を自覚した言論人の育成と、自由かつ開かれた環境の形成への寄与を目的とした本賞の歴史や受賞者の紹介を、写真パネルや資料により展示します。

会期: 2009 年 11 月 21 日(土) ~ 12 月 5 日(土)

会場: 早稲田大学 小野講堂地下 1 階通路(予定)

7. 坂田雅子監督『花はどこへいった』関連企画

グレッグ・デイビス写真展「ベトナムへの視線」(Greg's moments of life:Vietnam)

共催 早稲田大学川口芸術学校

『花はどこへいった』上映会の関連企画。同作品の中核となる人物かつ監督の夫、グレッグ・デイビスが撮影した写真 30 数点および遺品などを展示予定。

会期: 2009 年 9 月 28 日(月) ~ 10 月 10 日(土)

時間: 10 時 ~ 18 時

閉室日: 10 月 4 日(日)

会場: ワセダギャラリー(早稲田大学 27 号館 1 階)

紹介ページ http://www.waseda.jp/cac/exhibition_20090904.html

8. 「占領期雑誌フォトス vs 現代若者の^{めぢから}眼力」

清里フォトアートミュージアム「ヤングポートフォリオ」収蔵作品より、フォトジャーナリズムをメインとした約 15 作家 65 点ほどを 125 記念室にて展示予定。また、占領期写真の展示も併せて計画中で、総展示枚数は 100 点ほどを予定。

会期: 2010 年 1 月 9 日(土) ~ 2 月 27 日(土)

会場：125 記念室
閉室日：日曜・祝日

9. 『この壁を飾るのは誰、この台上を埋めるのは君』(オルタナティブ・ギャラリー)

学内、学外を問わず若手中堅の写真家(プロ)や、セミプロ、アマチュアのノンジャンル作品持ち込みを、そのまま展示。各自のポートフォリオも展示台を設けて閲覧し、この場での批評会や議論を推奨、各メディアの取材、ギャラリストの方々へのお披露目の場が設定できれば教育機関の新たな試みとして面白い企画となるのではと考えています。

展示条件：写真はカラー、モノクロ、データプリント出力どれも可。四つ切で1人4枚まで(ただし招待作家6人はこの条件に当てはまらない)。

会期：2009年12月14日(月)～2010年1月16日(土)

会場：ワセダギャラリー

閉室日：日曜・祝日、冬季休業期間12月27日(日)～2010年1月11日(月・祝)

上記ほか、学生作品展覧会を12月に開催予定

大スライドショー

時間：各日とも18時30分～

会場：大隈講堂 大講堂

2009年11月24日(火)

「フランス・バイユー受賞作品(スピーチ：マガリー・ピニオン)」、「DAYS 掲載作品と受賞作品」、「ペルピニアン報道写真祭」、「マグナムとキャパ」、「広河隆一 2009年写真報告」など

2009年11月26日(木)

「ペルピニアン報道写真祭」、「DAYS フォトジャーナリズム学校卒業作品発表」、「在日外国人の撮影した『日本』」、「『日本ドキュメンタリー写真ユース・コンテスト』発表」 早稲田大学文化推進部、DAYS JAPAN、毎日新聞社 共催 詳細は告知サイト参照 <http://www.waseda.jp/cac/news090801.html>

上映会・講演・シンポジウム等

コア期間オープニング以降の日程順 コア期間外は開催日順

1. プレ・シンポジウム「戦争と写真」

日程：2009年11月22日(日) 14時

会場：大隈講堂 大講堂

「日中戦争から太平洋戦争における日本の写真家の動き」 白山真理(日本カメラ博物館運営委員) /

「現代の戦争とフォトジャーナリズム」 マガリー・ピニオン(仏・バイユー戦争特派員賞 広報代表委員) /

「戦争写真とリテラシー」 広河隆一(DAYS JAPAN 編集長) など

2. 「^{さわ}触れる地球 / 地球環境」

出演(予定):竹村真一(Earth Literacy Program・京都造形芸術大学教授)、
広河隆一(DAYS JAPAN 編集長)

日程(予定):2009年11月24日(火)および12月1日(火) 両日とも17時～

会場:デモンストレーション=ワセダギャラリー、解説:小野講堂

3. 政治学研究科ジャーナリズムコース 学生作品上映会(仮称)

日程:2009年11月25日(水)(予定)

会場:小野講堂

4. 「戦争報道にかけた人々 - テレビドキュメンタリーを通して見たフォトジャーナリストたちの実像」(仮題): 上映会・シンポジウム

共催 早稲田大学ジャーナリズム教育研究所、早稲田大学オープン教育センター、日本放送協会(NHK)

日程:2009年11月27日(金)、30日(月)

プログラム:

2009年11月27日(金) 15時～19時(予定) プレイベントの上映会

テーマに関連するNHKドキュメンタリーを連続して上映(5～6本を上映)

2009年11月30日(月) 15時～19時(予定) メインイベントのシンポジウム(1本を上映)

出演:花田達朗(早稲田大学教育・総合科学学術院教授 早稲田大学ジャーナリズム教育研究所所長)、

野中章弘(アジアプレス・インターナショナル代表、早稲田大学ジャーナリズム教育研究所客員研究員)、

番組制作者、フォトジャーナリスト など

会場:小野講堂

5. 石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞 記念 イベント(仮称)

同賞の受賞者または審査員などによるイベントを予定。

日程:2009年11月29日(日)

出演(予定):田沼武能(日本写真家協会会長)、広河隆一(DAYS JAPAN 編集長)、佐藤賢二郎(毎日新聞東京本社編集局 外信部記者)、古居みずえ(アジアプレス ジャーナリスト) ほか

6. 「写真から映像へ」

共催 早稲田大学川口芸術学校

坂田雅子監督「写真家グレッグ・デビスへの^{レクイエム}鎮魂歌 「花はどこへいった」上映・講演会」

「表現する若手ドキュメンタリスト - 早稲田大学川口芸術学校生による選抜作品 など」

および「記録映画の中のフォトジャーナリストたち」上映・講演会(仮称)

出演:坂田雅子(『花はどこへいった』監督)、高橋恭子(川口芸術学校副校長・教授) など

日程: 2009年12月4日(金) 事前申込不要、先着150名程度

14:45 開始、挨拶、監督紹介

14:55 「花はどこへいった」上映

16:15 終了、休憩15分

16:30 講演「写真家グレッグ・デビスへの^{レクイエム}鎮魂歌」

坂田雅子監督・短編「Out of Time」(約 15 分)を上映し、高橋教授との対談。
17:30 終演予定

2009 年 12 月 5 日(土)

内容:未定

会場:小野講堂

7. 本橋成一監督『バオバブの記憶』上映会・パネルディスカッション

出演:本橋成一(写真家・映像作家)、谷川建司(早稲田大学政治経済学術院教授)

司会 = 石井仁志(20thメディア評論(音楽・写真・映像)、メディアプロデューサー)

日程:2009 年 11 月 21 日(土)

会場:小野講堂

事前申込不要、先着 200 名程度

8. 『現代若者の^{めぢから}眼力』パネルディスカッション

出演:細江英公(写真家、清里フォトアートミュージアム館長)、山地裕子(同館 学芸員)、
北野謙(写真家)

司会 = 石井仁志(20thメディア評論(音楽・写真・映像)、メディアプロデューサー)

日程:2009 年 12 月 15 日(火) 15 時 ~ 18 時(途中休憩 30 分)

会場:小野講堂

事前申込不要、先着 200 名程度

9. 『占領期雑誌フォトス語る』パネルディスカッション

出演:谷川建司(早稲田大学政治経済学術院教授)、原田健一(新潟大学教授)、
馬場公彦(岩波書店編集者)

司会 = 石井仁志(20thメディア評論(音楽・写真・映像)、メディアプロデューサー)

日程:2010 年 1 月 16 日(土) 15 時 ~ 17 時 30 分

会場:小野講堂

事前申込不要、先着 200 名程度

上記ほか、「ジャーナリズム・シンポジウム」を 12 月に開催予定。

ワークショップ

「初心者向けデジタルカメラ教室」

実施:株式会社 ニコン イメージング ジャパン

実習内容:早稲田大学構内(特にギャラリーや展示内容など)の取材

日程:2009 年 11 月 25 日(水)

時間:13 時 ~ 17 時

(13時～14時30分:講義、14時30分～15時30分:撮影実習、15時30分～17時:講評)
会場:26号館大隈記念タワー3階302号室
参加方法:当日先着順(予定)
定員:30名(カメラ貸出は先着20名) 機材を借りる方は、メモリーカードを持参すること。

ボランティア活動等

フェスティバル運営のための協力者を募り、研修を行ったうえで多種多彩な活動を実施する。

対象:フォトジャーナリズムに興味のある方(学外含む)、世界で起きている事に関心をもっている方、NGOなど世界に仕事の場をもとうとしている方、それらの現状を伝えたいと思っている方。サークル単位などでの参加も可。

活動内容例:展示に関わること(事前準備・設営・解説・会場監視・撤収など) / 各イベントの運営(事前準備・設営・受付・撤収など)

2009年8月1日より研修を実施。単発参加でも通しの参加も可。参加希望者は随時受け付けている。

ブックフェア

早稲田大学生協同組合による、ジャーナリズム関連書籍のブックフェア開催

開催概要

【開催期間】2009年9月28日(月)～2010年2月27日(土)

コア期間 2009年11月23日(月・祝)～12月5日(土)

【会場】早稲田大学内各所、一部学外(交渉中)

大隈記念講堂、小野梓記念館(小野記念講堂、ワセダギャラリー、地下1階通路)、
26号館10階125記念展示室、学生会館 ほか

【入場料】早稲田大学学内開催イベントは無料

【共催】早稲田大学(文化推進部)・DAYS JAPAN

【学内参加箇所】

[A] 政治経済学術院、文学学術院(文化構想学部)、教育・総合科学学術院、川口芸術学校

[B] 教務部、学生部、総務部(総務課)、キャンパス企画部、広報室

[C] ジャーナリズム教育研究所、イスラーム地域研究機構

[D] オープン教育センター、平山郁夫記念ボランティアセンター、エクステンションセンター

【全体および個別イベント共催・協力・協賛・後援 等(予定)】50音順

清里フォトアートミュージアム / 株式会社 シグロ / 東京都新宿区 / 株式会社 ニコン イメージング ジャパン

/ 日本放送協会(NHK) / 毎日新聞社(写真部) / 早稲田大学生生活共同組合 など

交通案内

メイン会場：早稲田大学 早稲田キャンパス
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1
URL: <http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html>

問い合わせ先

早稲田大学
文化推進部 文化企画課
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 大隈記念タワー2階
TEL 03-5272-4783 / FAX 03-5272-4784
E-Mail: pjf@list.waseda.jp
URL: <http://www.waseda.jp/cac.index.html>

DAYS JAPAN
㈱デイズジャパン プロジェクト事業部
〒156-0043 東京都世田谷区松原 1-37-19-302
TEL:03-3322-4150 / FAX:03-3322-0353
URL: <http://www.daysjapan.net>